

中尾まさみ先生 業 績 一 覧

[単著]

『英語圏の現代詩を読む——語学力と思考力を鍛える12講』、東京大学出版会、2017年、204pp.

[共著]

『想像力の変容』、高松雄一編、研究社出版、1991年、「1916年の『緑』——イエイツの政治意識をめぐって」、pp. 365-381を分担執筆.

『逸脱の系譜』、高橋康也編、研究社出版、1999年、「消去の詩法——ポール・マルドゥーン初期詩群における『唐突な転換』のモチーフ」、pp. 531-550を分担執筆.

『イギリス文学』、山内久明、高田康成、高橋和久編、放送大学教育振興会、2003年、第12章「モダニズムの時代」、pp. 231-246、第14章「さまざまな声」、pp. 263-278を分担執筆.

『英語の教え方学び方』、斎藤兆史編、東京大学出版会、2003年、「ネッシーは何語を話すか——スコットランド・アイルランド・中国の詩と英語」、pp. 57-76を分担執筆.

『批評理論』、丹治愛編、講談社、2003年、「悲しきシェイクスピア——ポストコロニアル批評」、pp. 162-192を分担執筆.

Writing at the Edge of the Universe. Mark Williams, ed. Christchurch: Canterbury UP, 2004. “The Gate to Another Garden”: Text and Image in Jenny Bornholdt’s *These Days*’, pp. 151-164を分担執筆、英語.

On Campus、東京大学教養学部英語部会編、東京大学出版会、2006年、「Poetry: Introduction」、pp. 108-115を分担執筆、英語.

『周縁地域の自己認識』、郭南燕編、弘前大学出版会、2007年、「ジェイムズ・K・バクスターとダニーデイン——死と再生の二年間——」、pp. 104-119を分担執筆.

『アイルランド・ケルト文化を学ぶ人のために』、風呂本武敏編著、世界思想社、2009年、「イエイツ」、pp. 187-197を分担執筆.

『高校生のための東大授業ライブ ガクモンの宇宙』、東京大学教養学部編、東京大学出版会、2012年、「眩惑する言葉——現代詩の実験を楽しむ」、pp. 29-49を分担執筆.

『高校生のための東大授業ライブ——学問への招待』、東京大学教養学部編、東京大学出版会、2015年、「転換期を生きる詩人の5つの肖像——W. B. イエイツとアイルランド」、pp. 226-243を分担執筆.

『文学都市ダブリン——ゆかりの文学者たち——』、木村正俊編著、春秋社、2017年、第15章「シェイマス・ヒーニー 骨に書かれた文様——ヴァイキング都市ダブリンと詩人の転機」、pp. 317-344を分担執筆.

[論文]

- 「人と土地と芸術と——『ロバート・グレゴリー少佐の思い出に』について」、『日本イエイツ協会会報』16号、日本イエイツ協会、1985年7月、11-20. 査読有り.
- 「不在の 대기——Seamus Heaney の“Glanmore Sonnets”」、『リーディング』7号、東京大学大学院英文学研究会、1987年3月、141-147.
- 「“Easter 1916”にみるイエイツの現実受容」、『リーディング』8号、東京大学大学院英文学研究会、1988年4月、19-28.
- 「ゴバンの酒と杯——『灰色の岩』について」、『日本イエイツ協会会報』18号、日本イエイツ協会、1988年7月、23-33. 査読有り.
- 「詩人と『紛争』——Seamus Heaney の“Triptych”」、『フェリス女学院大学紀要』24号、フェリス女学院大学、1989年1月、83-96.
- 「イエイツと内戦」、『英語青年』10月号、研究社出版、1989年9月、334-335.
- “Edwin Morgan and Glasgow”、『フェリス女学院大学文学部紀要』28号、フェリス女学院大学、1993年3月、45-63. 英語.
- 「『対面』の構図——*Seeing Things*に見るヒーニーの詩法」、『英語青年』2月号、研究社出版、1996年1月、611-613.
- 「イエイツからヒーニーまで——20世紀アイルランド詩の系譜」、『現代詩手帖』10月号、思潮社、2001年10月、126-131.
- ‘America in Muldoon / Muldoon in America’, *Poetica* 64 (2005), 105-120. 査読有り、英語.
- 「対話する庭——1920年代ニューージーランドにおけるイングリッシュネスの諸相」、科学研究費成果報告書『18世紀後半以降のイギリスにおけるイングリッシュネス概念の生成に関する文化研究』、2007年4月、41-58.
- 「浮遊する自意識——アイルランド詩の現在」、*ERA*、第2次3号、2009年10月、30-37.
- 「『閉じぬ扉を背にして』——‘District and Circle’における詩と暴力」、『イエイツ研究』第40号、日本イエイツ協会、2010年1月、36-52. 査読有り.
- ‘The Wild Swans at Coole and Ireland of Its Time’, *Journal of Irish Studies*, Vol. 28 (2013), 34-43. 査読有り、英語.
- 「移動する詩人／書き直される土地——シェイマス・ヒーニーと暴力」、『現代詩手帖』、2014年3月号、28-32.
- 「窓辺の詩人たち——イエイツとヒーニーの詩的自画像を読む」、『イエイツ研究』第51号、日本イエイツ協会、2021年2月、3-23.

[翻訳]

- ジャネット・フレイル『エンジェル・アト・マイ・テーブル』虎岩直子と共訳、筑摩書房、1994年、全2巻中第1巻担当.

アルベルト・マンガエル、ジアンニ・グアダルーピ『完訳 世界文学にみる架空地名大事典』高橋康也、安達まみ、桑子利男、中尾まさみ、林完枝監訳、講談社、2002年、監修と原著D項担当。

[事典]

『世界文学大事典』高松雄一他編、集英社、1996年-1998年、全6巻、「シェイマス・ヒーニー」「ディラン・トマス」など15人名項、9事項担当。

『20世紀英語文学辞典』‘Seamus Heaney’, ‘Edwin Muir’ など105人名項と8事項を分担執筆、研究社、2005年。

[その他]

「二通の手紙——『ドロシー・ウェルズリーへの詩についての書簡』より」、『現代詩手帖』11月号、思潮社1985年11月、81-85、翻訳・解説。

「スコットランドの詩」、『英語青年』6月号、研究社出版、1992年5月、22、コラム「海外新潮」。

「Field Day Anthology」、『英語青年』9月号、研究社出版、1992年8月、39、コラム「海外新潮」。

「地下鉄の詩」、『英語青年』12月号、研究社出版、1992年11月、27、コラム「海外新潮」。

「女性詩人たち」、『英語青年』3月号、研究社出版、1993年2月、27、コラム「海外新潮」。

「ソネット60番」、『現代詩手帖』9月号、思潮社、1993年9月、63-65、翻訳と解説。

「天使の降り立つところ」、『ちくま』9月号、筑摩書房、1994年8月、10-13、エッセイ。

「書評・佐野哲郎編『豊穡の風土——現代アイルランド文学の群像』」、『英語青年』1月号、研究社出版、1994年12月、39-40。

「イエイツ『煉獄』」「シング『西の国の人気者』」、『世界文学101物語』、高橋康也編著、新書館、1996年、172-3、231、解説。

「書評・現代アイルランド詩研究会編『ポール・マルドゥーンとの出会い』」、『イエイツ研究』第28号、日本イエイツ協会、1996年10月、84-87。

「書評・鈴木聡著『終末のヴィジョン——W. B. イエイツとヨーロッパ近代』」、『英文学研究』第75巻1号、日本英文学会、1998年9月、105-109。

「書評・Robert Crawford, ed.: *The Scottish Invention of English Literature*」、『英語青年』1月号、研究社出版、1998年12月、79-80。

解説・引用の翻訳、『出淵博著作集1・イエイツとの対話』出淵博著、みすず書房、2000年、pp. 325-331。

「Louis MacNeice, ‘Snow’——雪と薔薇の間にあるもの——」、『英語青年』6月号、研究社出版、2002年5月、30-31。

‘Book Review: K. Kihara, *Yeats and Mask: The Paradox of Death*’, *Journal of Irish Studies*, Vol. 18 (2003), 138-9, 英語。

「マクニースをめぐる文学史再考——ロマン派、モダニズム、アイルランド詩」、高岸冬詩、道家

- 英穂、辻昌宏と共著、『現代詩手帖』（思潮社）、2013 年 10 月号、64-81.
- 「駒場ライターズスタジオ（KWS）——書き手を育てる学習支援」、『東京大学教養学部報』第 574 号、2015 年 5 月 13 日.
- 「3つの言語でひらく新たな地平——東京大学トライリンガル・プログラム公開シンポジウム」、『東京大学教養学部報』第 584 号、2016 年 6 月 1 日.
- ‘Book Review: Naoyuki Date, Mariko Hori, Toru Sato, and Naomi Tonooka, *War/ Poetic Imagination/ Ethics: Ireland’s civil war, nuclear war, the Northern Ireland conflict, the Iraq War*’, *Journal of Irish Studies*, Vol. 32 (2017), 64-66, 英語.
- 「本の棚・河合祥一郎著『シェイクスピア—人生劇場の達人』」、『東京大学教養学部報』、第 599 号、2018 年 4 月 1 日.
- 「東大教師が新入生にすすめる本」、『UP』第 47 巻 4 号、18-19、東京大学出版会、2018 年 4 月 5 日.
- 「入試はゴールではない——英語教育における高大接続をめぐって」、『東京大学教養学部報』、第 608 号、2019 年 4 月 1 日.
- 「変化と改革の日々——前期英語教育 2001-2020」、『駒場の 70 年 1949-2020——法人化以降の大学像を求めて』、駒場 70 年史編集委員会編、東京大学出版会、2021 年、pp. 142-144.

〔発表・講演〕

- 発表 「『灰色の岩』について」、日本イエイツ協会第 22 回大会、1986 年 10 月.
- 発表 ““In That Neuter Original Loneliness”: Seamus Heaney’s “Triptych””, the 4th International Conference of IASAIL Japan、1987 年 11 月、英語.
- 発表 「イエイツの緑」、シンポジウム「イエイツ——政治と想像力」、日本イエイツ協会第 24 回大会、1988 年 11 月.
- 発表 ‘Edwin Morgan and Glasgow’, British Council English Literature Seminar、1992 年 9 月、英語.
- 発表 ‘Edwin Morgan and Douglas Dunn: The Two Scotsmen’、シンポジウム ‘Regionalism vs. Internationalism in Contemporary Poetry’、日本英文学会年次大会、1993 年 5 月、英語.
- 発表 ‘Loch Ness Monster in a Japanese Classroom’, 13th Oxford Conference of Teaching English Literature, British Council、1998 年 4 月、英語.
- 発表 ‘The Poetics of Deletion in Paul Muldoon’s Early Poems’, the 15th International Conference of IASIL Japan、1998 年 9 月、英語.
- 発表 「1923 年アイルランドのレダ」、シンポジウム「歴史転換期と個人」、日本イエイツ協会第 37 回大会、2001 年 9 月.
- 招待講演 ‘New Zealand Literature and Japan’, Faculty Seminar, Univ. of Otago、2003 年 8 月、英語.
- 発表 ““The Gate to Another Garden”: The Text and the Image in Jenny Bornholdt’s *These Days*’, 国際学会 ‘Creative Writing in New Zealand’、2003 年 8 月、英語.
- 報告 「PO (Presentation / Oral) の授業について」、東京大学教養学部英語部会主催シンポジウム

「東京大学の英語教育——改革の道程と今後の展望」、2007 年 5 月。

コメント、東京大学教養学部スペイン語部会主催シンポジウム「東京大学スペイン語教育の挑戦——ウェブ環境を利用した外国語教育学習モデル」、2007 年 11 月。

発表「図書館と航海術——マオリ現代詩の中の『歴史』」、第 15 回東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻主催シンポジウム『『地域知』の探求」、2007 年 12 月。

招待発表「『閉じぬ扉を背にして』——‘District and Circle’ と交通」、日本イエイツ協会第 44 回大会、2008 年 9 月。

シンポジウム司会 ‘Contemporary Irish Female Voices’, The 25th International Conference of IASIL Japan (於学習院大学)、2008 年 10 月 11 日、英語。

発表「距離の力学——北アイルランド現代詩と紛争」、第 17 回東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻主催シンポジウム「地域文化研究の現場から」、2009 年 11 月。

基調講演 ‘Seafaring Libraries: the Transcultural Imagination in Contemporary Maori Poetry’, 2010 ELLAK Global Conference (韓国英文学会国際大会 於大田)、2010 年 12 月、英語。

研究報告 ‘W. B. イエイツとアイルランド」、科学研究費助成事業「ヨーロッパ文学の可能性と限界——統一性と多様性の相克をめぐる地域文化研究」第 1 回研究会、2012 年 9 月。

招待講演 ‘The Wild Swans at Coole and the Ireland of its Time’, The 53rd Yeats Summer School (於スライゴー)、The Yeats Society、2012 年 8 月 2 日、英語。

招待講演「『クールの野生の白鳥』を読む」、アイルランド文学研究会、2013 年 3 月。

シンポジウム司会「モダニズム再考——マクニース再評価の文学史的意義を考える」、日本英文学会関東支部第 7 回大会 (於明治大学)、2013 年 6 月 22 日。

発表 ‘Tollund Man in the Urban Landscape: Writing about Atrocity in Seamus Heaney’s Poems’, 2013 IASIL Conference (於ベルファスト)、2013 年 7 月 26 日、英語。

発表「James K. Baxter と Dylan Thomas——『破滅型』詩人像の造形と近代社会」、日本英文学会第 86 回全国大会 (於北海道大学) シンポジウム「破滅型詩人と近代社会」、2014 年 5 月 25 日。

招待発表「『旅する人々』の系譜——Seamus Heaney の詩における移動」、日本英文学会第 87 回全国大会 (於立正大学)、2015 年 5 月 24 日。

パネルディスカッション司会「そしてこれから——多言語教育と国際人材養成の未来」、「3つの言語でひらく新たな地平——東京大学トライリンガル・プログラム公開シンポジウム」(於東京大学)、東京大学グローバルコミュニケーション研究センター、2016 年 3 月 12 日。

シンポジウム司会 ‘Contemporary Irish Poetry and Japan’, The 34th International Conference of IASIL Japan (於近畿大学)、2017 年 10 月 15 日、英語。

発表「‘neither here nor there’——*The Spirit Level* における平衡と運動性——」、日本イエイツ協会第 53 回大会 (於中央大学)、2017 年 11 月 19 日。

招待講演「ことばを開く——英語圏現代詩への招待」、明治学院大学英文学科イギリス文学講演会、2018 年 5 月 29 日。

特別講演 「窓辺の詩人たち——イエイツとヒーニーの詩的自画像を読む」、日本イエイツ協会第 55 回大会（於愛知学院大学）、2019 年 11 月 16 日。

シンポジウム企画・司会 「ぐうたら、酔いどれ、ならず者——文学におけるアンチ・ヒーローの系譜——」 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻第 28 回公開シンポジウム（オンライン）、2020 年 10 月 31 日。

発表 「『ともに食卓を囲むことの叶わぬ友人たち』——イエイツとヒーニーのエレジーをめぐって」、シンポジウム「イエイツの価値を問い直す——詩人と続く世代との対話を手がかりに——」、日本イエイツ協会 57 回大会（オンライン）、2021 年 11 月 14 日。

〔博物館展示企画・監修〕

「W. B. イエイツとアイルランド」展、東京大学総合文化研究科駒場博物館、2012 年 5 月 12 日-7 月 1 日。